

(様式1)

平成28年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 057	提案機関名 農業技術センター
要望問題名 露地ナスのIPM防除体系の確立およびその環境保全効果、経済性の評価	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 <背景> ・露地ナスの栽培は県内全域で行われ、直売等でも必須の作物であり、生産者も多いため、容易に取り組める環境保全型の栽培技術の確立が必要である。 ・特にアザミウマ類等の微小害虫、オオタバコガ等は薬剤抵抗性の発達や適期防除の困難性などから、果実への被害も多く難防除害虫となっている。 ・収穫作業や管理作業等と防除作業は重複することから、経済的かつより省力的な防除技術が必要とされる。 <要望の内容> ・天敵等の導入やより簡易で経済的な防除技術を導入した本県における露地ナスでのIPM防除体系の確立 ・IPM防除体系における環境保全効果、環境負荷軽減効果またIPM防除の経済性の評価手法の検討	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産環境部病害虫研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 病害虫の診断同定および発生生態の解明に基づく予察・防除技術の確立			
対応の内容等 現在、露地ナス栽培でアザミウマ類等の微小害虫の在来天敵として知られているヒメハナカメムシ類の試験を行っており、ウリ科作物を天敵温存(誘引)植物として利用できないか検討しています。また、他県では、露地ナス栽培でスワルスキーカブリダニを利用したIPM技術の実証を行っています。今後、それらの技術を参考にしつつ、本県における露地ナス栽培IPM防除体系の構築を検討していきます。 環境保全効果や環境負荷軽減効果、経済性の評価手法についてはあまり研究が進んでおらず、化学農薬の使用回数の削減という点のみで評価を行っているのが現状です。評価手法など新たな情報が入りましたら随時情報提供します。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			